



歴史文化基本構想推進事業 瀬戸の魅力再発見 **せと 歴史と文化財を知る見学会**

「瀬戸の古墳Ⅱ 東谷山と水野の古墳を歩く」

日時：平成31年3月9日(土)

見学コース：午後 1 時 00 分 文化センター北駐車場で集合・出発

(予定時間) 1 時 30 分 東谷山フルーツパーク駐車場へ到着

1時40分 東谷山27号墳・南社古墳・中社古墳・尾張戸神社古墳の見学

3時00分 荇坪古墳の見学、水野浄化センター西から出発

4時00分 文化センター北駐車場へ到着・解散

(※の写真・図版は、名古屋市教育委員会 2011『埋蔵文化財調査報告書 62 志段味古墳群』)

名古屋市教育局 2014 『埋蔵文化財調査報告書 70 志段味古墳群Ⅱ』

名古屋市教育局 2015『史跡志段味古墳群保存管理計画』より引用(一部加工も含む)

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきものの生産
の変遷

今回見学する文化財とその関連年表

本地大塚古墳（西本地町2丁目）

宮地古墳群(上之山町 2 丁目)

広久手第 30 号窯跡
 木造十一面観音菩薩立像（下半田川町） 県
 木造阿弥陀如来立像（下半田川町） 県

古瀬戸瓶子（寺本町）

陶製狛犬（深川町）国

瀬戸窯跡【小長曾窯跡】（東白坂町）国
永享年銘梵鐘
聖徳太子絵伝（塩草町）

定光寺本堂（定光寺町）国
織田信長制札（窯町）
瀬野郷倉『大般若経』〔一部鎌倉〕
瀬戸窯跡【瓶子窯跡】（鳳山町）国
源敬公廟（定光寺町）国
笠原村・両半田川村国境爭論絵図（東松山町）
石造地蔵菩薩立像（片草町）

陶質十六羅漢塑像（寺本町）
六角陶碑（藤四郎町）
旧山繁商店（仲切町・深川町）国登
瀬戸永泉教会礼拝堂建造（杉塚町）国登
陶製梵鐘（深川町）

古墳 飛鳥	5世紀
	6世紀
	7世紀
奈良	8世紀
平安	9世紀
	10世紀
	11世紀
鎌倉	12世紀
	13世紀
南北朝	14世紀
室町	15世紀
戦国	16世紀
安土・桃山	17世紀
江戸	18世紀
	19世紀
(明治)	20世紀
(大正)	21世紀
(昭和)	

須恵器・灰釉陶器
山茶碗・古瀬戸
大窯製品
連房製品

須恵器・灰釉陶器
山茶碗・古瀬戸
大甕 製品
追分 製品



・延喜 5(927)『延喜式』に「尾張戸神社」の記載

- ・南社古墳上から陶製経塚片（経塚造営か）

- ・尾張戸神社古墳上に多量の山茶碗が置かれる
(祭礼行為?)

・大永元(1521)尾張戸神社拝殿・仏殿が焼失し、
尾張守護の斯波氏が神社再建

- ・慶安 5(1652) 十軒家集落の草創
- ・寛文 5(1665) 尾張藩 2 代藩主徳川光義 (のちの光友) による尾張戸神社等再建
- ・明和 4(1767) 明和の大洪水で下水野村本郷移転

- ・明治 17(1884) 尾張戸神社神殿 (本殿) 改造 (この頃から本業敷瓦が敷かれはじめたか)

・平成 29(2018) 尾張戸神社本殿の部分修繕・周辺敷瓦の整備

①志段味古墳群（東谷山 27 号墳・南社古墳・中社古墳）

志段味古墳群には、愛知県で 3 番目に大きい白鳥塚古墳や、多くの副葬品が出土した志段味大塚古墳をはじめ 66 基の古墳がみられます。

古墳時代前期 (4 世紀) には白鳥塚古墳や尾張戸神社古墳・中社古墳をはじめ東谷山頂付近を中心に古墳がみられ、中期から後期初め (5 世紀～ 6 世紀初め) に大久手池北側の段丘面に帆立貝式古墳の志段味大塚古墳・勝手塚古墳など、後期から終末期 (6 世紀～ 7 世紀) には東谷山西麓に東谷山白鳥 1 号墳ほかの群集墳が造営されました。



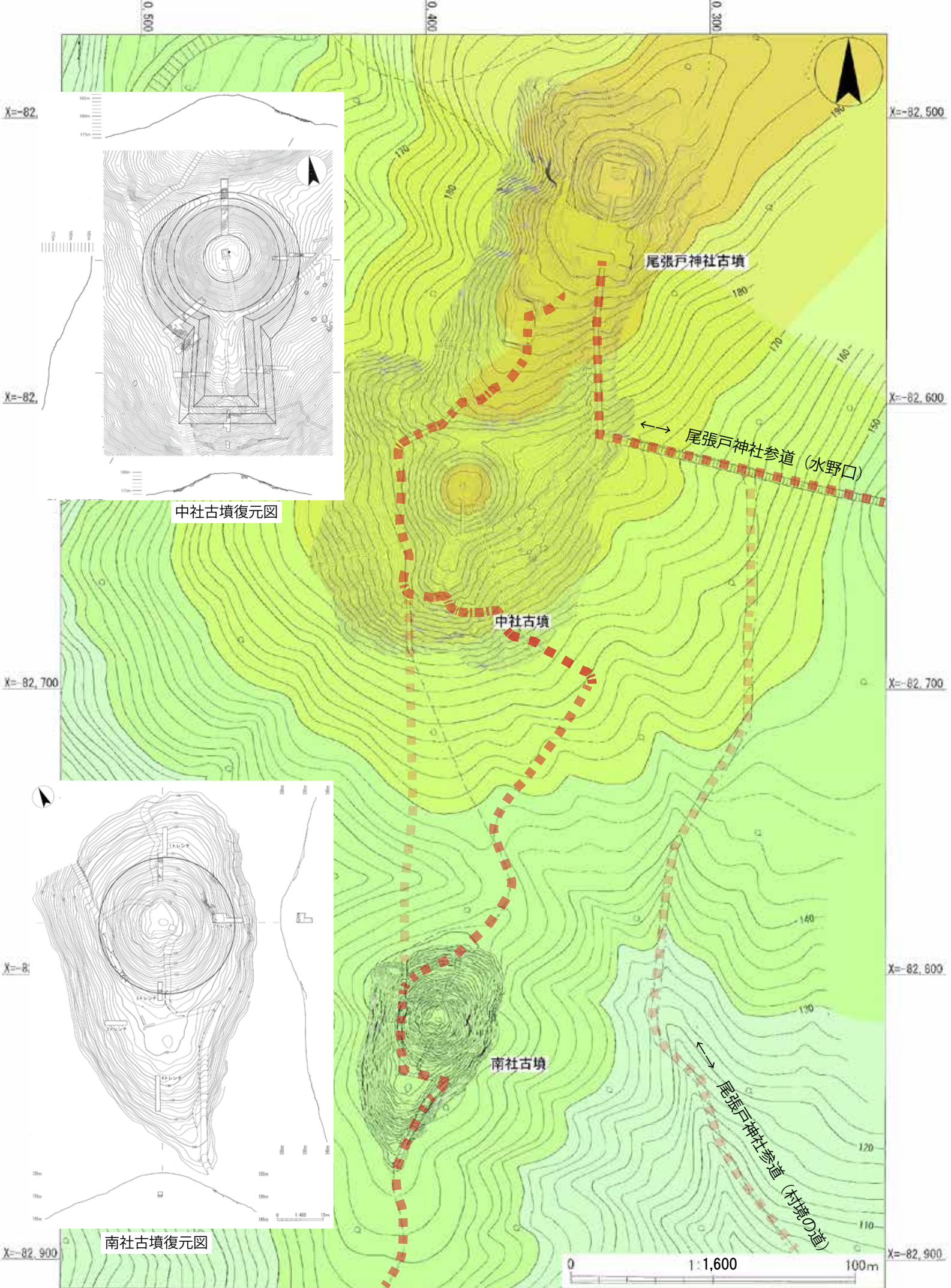
東谷山 28-A 号墳石室（南西羨道側から）



中社古墳 1 トレンチ調査※



『尾張名所図会』に描かれた尾張戸神社・東谷山（當國山）



南社古墳～尾張戸神社古墳の地形図と見学路等※(原図を一部加工)

②志段味古墳群（尾張戸神社古墳）・尾張戸神社

東谷山の山頂（標高 198.3 m）に所在する尾張戸神社古墳は、2009 年の発掘調査により、墳丘径 27.5 m の円墳であることが確認されました。

墳丘は 2 段築成と推定され、墳丘の上部（2 段目）は尾張戸神社の社殿の建築に伴い、大きく改変されています。

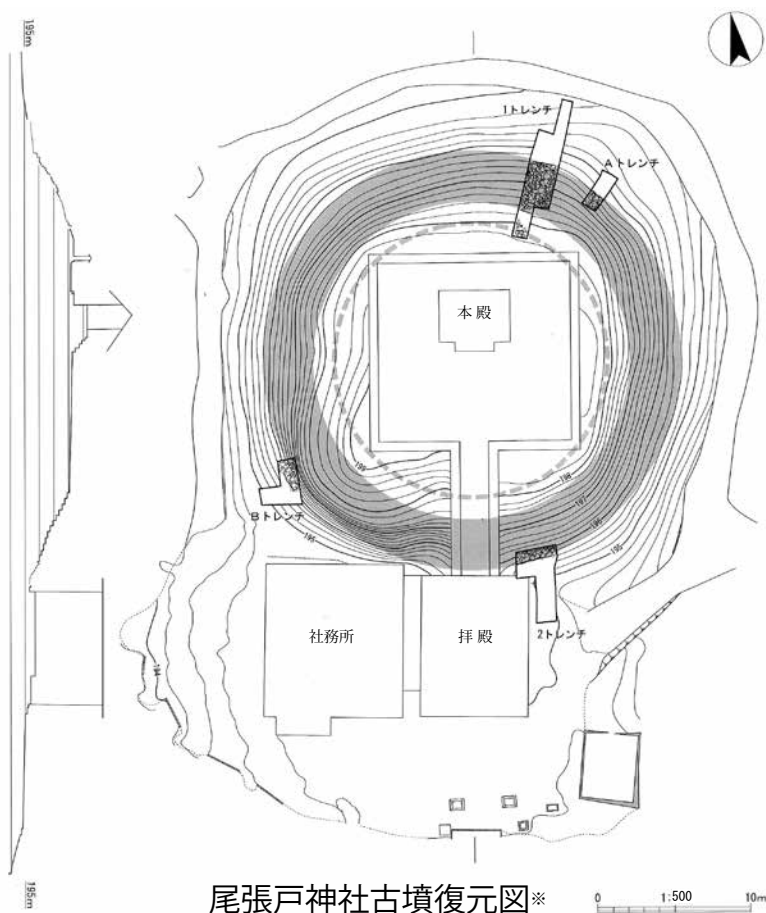
葺石には大きな角礫が用いられ、何重にも石を重ねるように施されています。石英が、葺石の間や、転がり落ちた葺石などとともに多く見つかり、白鳥塚古墳や中社古墳と同じく頂部の平坦面や葺石の上にまかれていたものと推定されます。

古墳時代の遺物はこれまでの発掘調査で発見されていませんが、埴輪を伴わないことなどから白鳥塚古墳と同時期の 4 世紀前半に築かれたものと考えられています。

墳丘南側斜面とその下の 2 トレンチでは、14 世紀後半から 15 世紀前半を中心とした東濃形山茶碗がまともに出土しています。これは、墳頂付近を造成して築いた尾張戸神社の本殿付近で何らかの祭礼が行われたものと思われます。



古墳の頂部に築かれた尾張戸神社本殿



尾張戸神社古墳復元図※

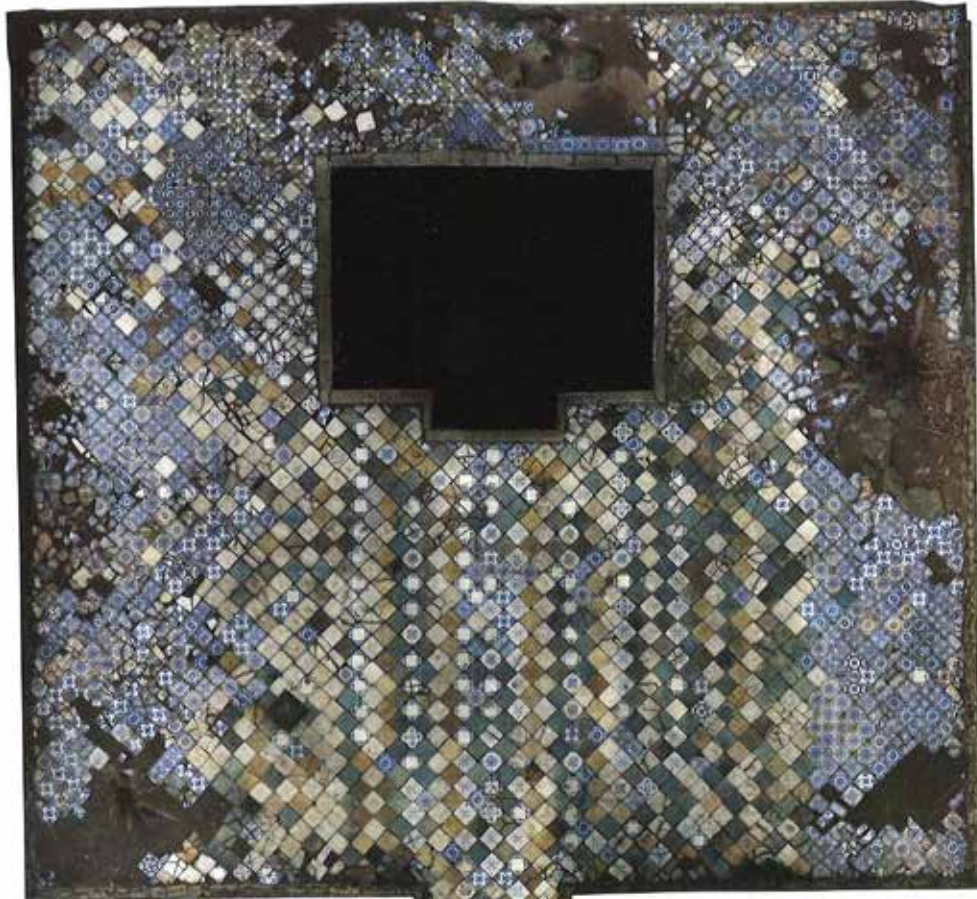


尾張戸神社古墳 2 トレンチ 山茶碗※

尾張戸神社古墳の墳頂に築かれた尾張戸神社は、延長5(927)年の『延喜式』に記載があり、『尾張国内神名帳』には「尾張戸天神」の記載がみられます。

尾張国造(尾張連)を輩出した古代豪族の尾張氏を祭神とする尾張戸神社は、江戸時代には寛文

5(1665)年尾張2代藩主徳川光義(後の光友)による本社、神宮寺、末社等の再建以降代々の藩主により営繕が行われていました。明治17(1884)年には神殿(本殿)を八幡造から神明造に変更しており、このころから本殿の周囲に敷瓦・本業タイルが敷かれ始めたものと思われます。



尾張戸神社本殿周辺の敷瓦

(撮影画像を真上方向から合成)

※ 2015 年度文化財名古屋保存活用実行委員会(事務局:名古屋
市教育委員会)撮影画像による
(文化財名古屋保存活用実行委員会 2016『尾張戸神社調査
報告書-敷瓦・棟札の調査-』より)



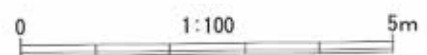
本殿と敷瓦(南西より)



本殿と敷瓦(南より)



本殿より↑



えつぽ ③ 荏坪古墳

荏坪古墳は、瀬戸市内田町1丁目に所在します。本古墳は、水野川によって形成された水野盆地を南に見渡す標高89～93mの丘陵斜面中腹に立地します。水野盆地北側の丘陵斜面には東西に数多くの横穴式石室をもつ後期古墳がみられ、東は穴田丘陵から品野盆地北側丘陵まで、西は東谷山を挟んで志段味丘陵まで断続的にみられます。これらは、墳丘の規模が直径10～20mの小規模な円墳がほとんどで、「群集墳」と呼ばれています。

他地域の多くの群集墳で想定されているのと同様に、荏坪古墳に葬られたのも地域の有力農民層であったと思われます。これらの後期古墳に葬られた人々の生活領域は、眼下に見下ろす水野盆地を中心とした範囲であったと思われます。しかし、この時期の関連集落の位置については、平成27年度に発掘調査された中水野遺跡で掘立柱建物などが検出されていますが、詳細についてはまだ明らかではありません。

荏坪古墳は丘陵斜面に土を盛り上げて墳丘を作り出したものと考えられ、直径約17mの円墳で、高さは4.8mを測ります。

墳丘の南側から中心部にかけて全長11.2mの横穴式石室が築かれています。入口からは、幅1.4～1.5mの羨道が7.2m続き、最大幅2.3m奥行4mの玄室へと続きます。羨道と玄室の間には、幅0.7～0.8m、高さ0.6mほどの石を左右に各2段配置し、玄室入口を明確にしておき、「擬似両袖式」の構造をなしています。羨道の高さは現状で1.6m、玄室の高さは最大2.6mです。当初の床面は現状より0.2m程低かったと思われます。

玄室は、左右の側壁から奥壁にかけてやや幅を狭める「胴張り形」の平面形をなしています。左右の側壁は5・6段の石積みからなりますが、下部にやや小さめの石、上部にやや大型の石を使っており、庄内川流域の高蔵寺3号墳などの共通点が認められます。水野川流域では、矢

田川流域と同様な石室の特徴がみられます。大型の四角い石材を用いて、玄室が胴張りをもたず長方形の平面をなす「畿内型」の横穴式石室をもつものは少なく、胴張りをもつ平面形で無袖や擬似両袖式の横穴式石室をもつ西三河系の古墳が多い特徴がみられます。

発掘調査を行っていないため、副葬品等の状況は不明で、築造時期については詳細が明らかではありません。石室の規模や構造等から6世紀後半から7世紀初頭にかけての時期に築かれたものと考えられます。



荏坪古墳 石室入口全景（南より）



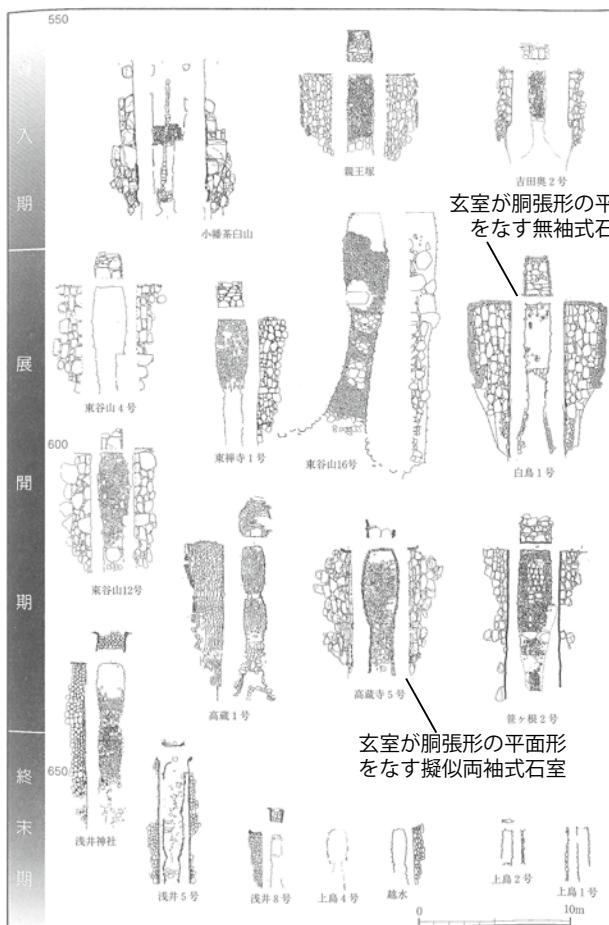
石室入口を玄室より見る（北より）



石室奥壁（鏡石）（南より）

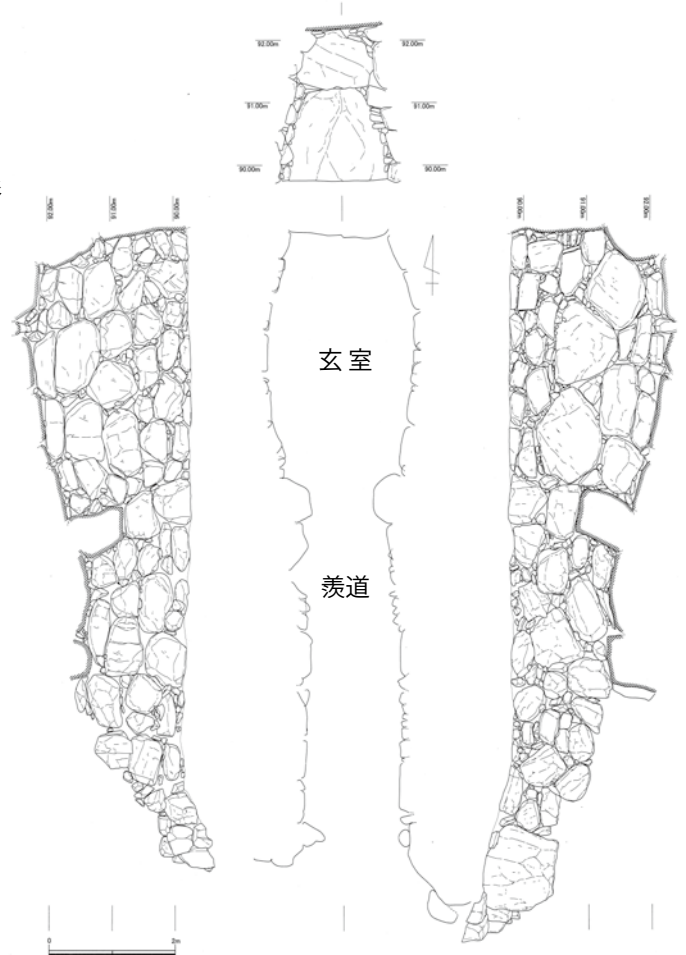


桂坪古墳墳丘地形測量図 (S=1/200)



尾張地区の横穴式石室変遷図

(服部哲也 2005 「尾張地域の横穴式石室の変遷」『愛知県史資料編 3』より)



桂坪古墳 石室実測図 (S=1/120)

今後のスケジュール

<3月>

みんなでつくろう！～瀬戸市の歴史文化、自然を活用した観光ルート～

日 時： 3月17日（日） 午後1時～3時30分

開催場所： 瀬戸市文化センター 文化交流館3階31会議室

内 容： 瀬戸市内10地区の皆さんや、他の市町の人、せと市民の皆さんを交えて
アイデアを出しあい、歴史文化観光ルートを作ります。

参加費： 無料

対 象： どなたでも参加可

※事前申し込み等は不要、詳しくは広報せと3月1日号に掲載しています。

瀬戸市歴史文化ホームページ

昨年度、新たに瀬戸市の歴史文化に関するホームページ「瀬戸市の歴史・文化～1000年以上の歴史を誇るせとものまち 陶都瀬戸～」を開設しました。

これまでに開催した「まちめぐり」の資料や瀬戸の古い町並みなどの写真、さらに昨年度刊行した瀬戸市歴史文化ガイドブック「千年続く誇りを巡る旅」、瀬戸を知るテーマ別ガイド「のんびりじっくりせとマップ」などが閲覧・ダウンロードできます。ぜひご活用下さい。

アドレス：<http://seto-guide.jp/>



本事業は、平成30年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術振興費補助金）を活用して実施しています。

主催：瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会（瀬戸市地域振興部文化課）